

## 令和3年度 診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

※同じ患者数が同順位で複数の場合、症例数順のKコード順とし、患者数等について10未満の数値の場合は、－(ハイフン)で記入しております。

### 消化器内科

	手術点数表 コード	手術名	症例数	手術前日数	手術後日数	転院率	平均年齢
1	K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径2センチメートル以上	636	0.3	1.3	0.8%	66.4
2	K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術	152	1.2	7.1	1.32%	72.3
3	K721-4	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	110	0.8	3.7	0.0%	65.1
4	K688	内視鏡的胆道ステント留置術	83	2.0	9.3	12.1%	75.0
5	K6871	内視鏡的乳頭切開術 乳頭括約筋切開のみのもの	55	1.6	5.5	3.64%	69.0

#### 《解説》

当科では「苦痛のない、精度の高い内視鏡検査と治療」を提供すべく、内視鏡診療にあたっています。特に食道・胃・大腸の腫瘍に対しては、道内ではいち早く内視鏡的粘膜剥離術を導入し、従来では手術が必要であった大きな病巣などにおいても早期の腫瘍であれば、積極的に内視鏡的治療を行ってきました。

また、肝胆膵領域においても、最新のエビデンスに基づいた診療を行うとともに、適応に応じて積極的に内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)関連手技や超音波内視鏡下での手技で行っています。

# 令和3年度 診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

## 腫瘍内科

※10症例未満は公表しません。

	手術点数表 コード	手術名	症例数	手術前日数	手術後日数	転院率	平均年齢
1	K6113	抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置 頭頸部その他に設置した場合	169	1.9	9.5	0.59%	60.6
2	K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	22	4.6	5.9	9.09%	63.1
3	K635	胸水・腹水濾過濃縮再静注法	14	4.4	7.2	0.00%	59.3
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-

### 《解説》

当科は消化器がん、乳がん、卵巣がんなど、固形がん全般に対する抗がん剤治療を専門とする診療科です。経静脈的に投与する多くの抗がん剤は血管外に漏出すると皮下組織に重大な損傷を起こします。当科では抗がん剤の静脈内投与をより確実に安全に行うために、中心静脈(CV)ポートを積極的に活用しています。また、CVポートは高カロリー輸液や麻薬系鎮痛剤の投与経路としても有用です。CVポートの造設は当科で小手術として行っています。胃がん、膵がん、卵巣がんでよくみられる腹膜播種は転移形式の一つで、難治性であり、尿管狭窄や腸閉塞を起こしやすい病態です。当科では腹膜播種を合併した患者さんを多く治療しており、尿管狭窄に対するステント留置件数が多くなっています。また、腹膜播種の合併症の一つである大量腹水に対する濾過濃縮再静注法の件数も増加しています。

## 令和3年度 診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

### 循環器内科

	手術点数表 コード	手術名	症例数	手術前日数	手術後日数	転院率	平均年齢
1	K5493	経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの	57	2.2	2.4	0.0%	72.7
2	K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	18	1.7	3.4	11.1%	76.9
3	K5972	ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	12	2.3	8.3	8.33%	76.7
4	K5463	経皮的冠動脈形成術 その他のもの	10	1.1	2.9	0.0%	62.2
5	-	-	-	-	-	-	-

#### 《解説》

循環器内科では、労作性狭心症に対する経皮的冠動脈ステント留置術、末梢血管疾患に対する四肢の血管拡張術などインターベンション治療を適応に応じて積極的に行っています。また、徐脈性不整脈に対してはペースメーカー植え込み術を行っています。平成29年度からは札幌市循環器呼吸器二次救急、平成30年からは札幌市ACSネットワーク当番を担当し、急性冠症候群や不整脈を含む急性期の循環器疾患にも積極的に対応し、これまで以上にインターベンション治療やデバイス治療に取り組んでいきます。

## 令和3年度 診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

### 外科

	手術点数表 コード	手術名	症例数	手術前日数	手術後日数	転院率	平均年齢
1	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	95	1.2	3.6	1.05%	60.9
2	K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	77	4.4	12.0	2.60%	68.8
3	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	54	1.0	1.7	0.0%	69.3
4	K655-22	腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術	44	1.8	12.7	2.3%	67.5
5	K740-22	腹腔鏡下直腸切除術・切断術 低位前方切除術	38	3.9	15.5	0.0%	66.2

#### 《解説》

当科は消化器一般外科領域に腹腔鏡・胸腔鏡を積極的に取り入れており、上位5位手術もすべて腹腔鏡です。胆嚢良性疾患は、ほぼ全例腹腔鏡で行っています。結腸・直腸、胃においても高度の進行癌を除いて腹腔鏡手術を第一選択としています。その他の消化器疾患、腹部疾患についても可能な限り腹腔鏡手術で行っています。鼠径ヘルニアについては、前立腺手術の既往があるもの以外は腹腔鏡を第1選択として行っており、その手技について全国に発信しています。肺悪性手術もほぼ全例胸腔鏡で行っており、近年症例数が増えています。食道、胃、直腸、膵、肺の手術には手術支援ロボット(ダヴィンチ)を導入しています。

# 令和3年度 診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

## 心臓血管外科

※10症例未満は公表しません。

	手術点数表 コード	手術名	症例数	手術前日数	手術後日数	転院率	平均年齢
1	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-

《解説》

## 令和3年度 診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

### 整形外科

	手術点数表 コード	手術名	症例数	手術前日数	手術後日数	転院率	平均年齢
1	K0461	骨折観血的手術 肩甲骨、上腕、大腿	36	4.5	24.4	88.89%	82.4
2	K1426	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(多椎間又は多椎弓の場合を含む) 椎弓形成	29	3.1	19.6	34.48%	76.0
3	K0821	人工関節置換術 肩、股、膝	24	2.3	22.1	16.67%	74.8
4	K1422	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(多椎間又は多椎弓の場合を含む) 後方又は後側方固定	18	4.3	23.3	44.44%	72.5
5	K0811	人工骨頭挿入術 肩、股	17	7.2	28.9	94.12%	86.5

#### 《解説》

高齢者の骨粗鬆症関連骨折の救急搬送が多い事と脊椎外科医2名が常勤である事から、上腕骨・大腿骨骨接合術と脊椎手術が主となっています。

## 令和3年度 診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

### 眼科

※10症例未満は公表しません。

	手術点数表 コード	手術名	症例数	手術前日数	手術後日数	転院率	平均年齢
1	K28210	水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(その他のもの)	238	0.1	2.1	0.00%	74.7
2	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-

#### 《解説》

眼科では白内障手術に対する水晶体再建術を主に行っています。片眼1泊2日が基本で両眼4泊5日でも手術しています。全身合併症のある患者さんも手術しています。

## 令和3年度 診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

### 耳鼻咽喉科

	手術点数表 コード	手術名	症例数	手術前数	手術後数	転院率	平均年齢
1	K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型(選択的(複数洞)副鼻腔手術)	77	1.0	4.9	0.0%	51.6
2	K3772	口蓋扁桃手術 摘出	27	1.3	6.1	0.0%	32.0
3	K6261	リンパ節摘出術 長径3センチメートル未満	21	1.1	3.5	0.0%	59.2
4	K347	鼻中隔矯正術	20	1.0	5.0	0.0%	37.8
5	K4631	甲状腺悪性腫瘍手術 切除(頸部外側区域郭清を伴わないもの)	19	1.4	6.6	0.0%	60.4

#### 《解説》

耳鼻咽喉科一般診療(中耳炎, 難聴, めまい, 慢性副鼻腔炎, アレルギー性鼻炎, 扁桃炎, 咽喉頭炎など)のほか斗南病院耳鼻咽喉科では特に頭頸部腫瘍の治療に力を入れています。マイクロサージャリーによる再建術を必要とする頭頸部がん(咽頭がん, 舌がんなど)の手術の他・放射線治療、放射線化学療法も数多く扱っています。



# 令和3年度 診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

## 形成外科

	手術点数表 コード	手術名	症例数	手術前日数	手術後日数	転院率	平均年齢
1	K0033	皮膚、皮下、粘膜下血管腫摘出術(露出部) 長径6センチメートル以上	73	1.6	6.0	0.00%	29.4
2	K0032	皮膚、皮下、粘膜下血管腫摘出術(露出部) 長径3センチメートル以上6センチメートル未満	40	1.0	3.0	0.00%	31.3
3	K6172	下肢静脈瘤手術 硬化療法(一連として)	40	0.0	1.2	0.00%	33.8
4	K333	鼻骨骨折整復固定術	27	1.0	5.7	0.00%	25.2
5	K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部) 長径2センチメートル未満	23	0.8	1.7	0.00%	20.2
5	K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術 肩、上腕、前腕、大腿、下腿、躯幹	23	0.8	4.6	0.00%	56.4

### 《解説》

当科での血管腫(皮膚の血管が異常に拡がったり、増えたりしてできるできもの)の治療件数は全国でもトップレベルであり、全国の医療機関より診断・治療のご紹介を受けております。

## 令和3年度 診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

### 婦人科

手術点数表コード	手術名	症例数	手術前日数	手術後日数	転院率	平均年齢
1 K877-2	腹腔鏡下腔式子宮全摘術	133	1.0	5.0	0.0%	48.1
2 K8882	子宮付属器腫瘍摘出術(両側) 腹腔鏡によるもの	86	0.9	4.2	0.0%	39.1
3 K872-2	腹腔鏡下子宮筋腫摘出(核出)術	67	1.0	5.1	0.0%	38.1
4 K867	子宮頸部(腔部)切除術	48	0.1	1.0	0.0%	38.8
5 K872-31	子宮鏡下有茎粘膜下筋腫切出術、子宮内膜ポリープ切除術 電解質溶液利用のもの	46	0.2	1.0	0.0%	39.3

#### 《解説》

令和3年度に当院婦人科・生殖内分泌科/腫瘍科で手術をした患者さんの平均年齢は43.7歳で、比較的若い年齢の割合が多くなっています。これは妊娠目的に受診されている患者さんが多いことが影響していると思われます。

当院は内視鏡下手術に積極的に取り組んでいることから、術後の平均入院日数は腹腔鏡下子宮全摘でも平均6.0日、腹腔鏡下子宮付属器手術で平均5.1日、子宮鏡下手術で平均1.2日と短くなっています。

術後も早期回復できるため、転院することなく、退院後早期に社会復帰されています。

## 令和3年度 診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

### 泌尿器科

	手術点数表 コード	手術名	症例数	手術前日数	手術後日数	転院率	平均年齢
1	K80364	膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 電解質溶液利用のもの	56	1.1	5.1	0.0%	74.7
2	K843-4	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	49	1.2	9.3	0.0%	71.8
3	K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	28	0.8	6.4	17.9%	64.0
4	K8411	経尿道的前立腺手術 電解質溶液利用のもの	28	1.5	6.2	0.0%	72.8
5	K773-5	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	15	1.1	6.1	0.0%	63.7

#### 《解説》

前立腺がんや腎がんなどの「泌尿器悪性腫瘍」に対する手術治療を行っています。当科では患者さんにとって体に負担の少ない優しい手術を心がけております。腹腔鏡手術をはじめとした内視鏡手術を積極的に行っているほか、希望する方には体に2-4cmの切開のみで手術操作をおこなう単孔式腹腔鏡手術も行っております。2019年4月からロボット支援手術の最新鋭機器であるダビンチXiが導入され、2019年6月からは前立腺がんに対して、8月からは腎がんに対してロボット支援手術を開始しています。手術治療だけでなく、進行性腎がんに対する薬物療法として分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤を用いた治療を行っているほか、進行性膀胱がんに対しても抗がん剤の治療を行っています。

# 令和3年度 診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

## 放射線科

※10症例未満は公表しません。

	手術点数表 コード	手術名	症例数	手術前日数	手術後日数	転院率	平均年齢
1	K773-4	腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	22	1.3	1.3	0.0%	70.5
2	K6152	血管塞栓術(頭部、胸腔、腹腔内血管等) 選択的動脈化学塞栓術	14	1.0	6.8	0.0%	77.4
3	K6153	血管塞栓術(頭部、胸腔、腹腔内血管等) その他のもの	13	1.0	2.2	0.0%	62.1
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-

### 《解説》

K773-4: 腎腫瘍に対する凍結療法 of 症例です。手術前の入院日数は主に術前検査のため、手術後は治療に伴う血尿や疼痛への対処に要する期間です。

K6152 K6153: 肝細胞がんの経カテーテル動注化学塞栓術の症例数です。手術前の入院日数は主に術前検査のため、手術後は治療に伴う肝機能障害に要する期間です。